

# yamabuki 通信

yamabuki は、『小学校でのパソコン授業』の URL より  
パソコン室から 不定期 発行

No. 57  
平成 19 年 10 月 4 日  
情報教育アドバイザー  
広田 さち子

## コンピュータを離れて情報教育を

花の名前を知りたいとき、花がどんな色の、どのくらいの大きさで、花びらの形や数、草の形、それから草丈とか葉の様子など、いろいろなことを手がかりに調べます。これも、「情報」です。でも、情報教育は、こういう情報について学ぶわけではありません。

情報教育は、情報を扱いながら、「相手意識」を学ぶことです。

情報教育の「情報」は、人為的な情報のことです。つまり、「誰かが」作った情報、「誰かが」発信した情報です。この「誰か」は、自分自身も含めています。

情報教育で学ぶのは、情報の向こうの「相手」を慮(おもんぱか)ることです。

作ったり発信したりするのに、必ずしもコンピュータを使うとは限りません。だから、情報教育は、コンピュータを使うこととは一致しないのです。

コンピュータで扱う情報は、「デジタル化された情報」だけです。情報は、「作る・送る・受け取る・加工する」といったどこかの段階でコンピュータなどIT機器が入れば、その時点で「デジタル化」されます。デジカメで写真を撮ることも、デジタル化の一つです。これは、あらゆる情報の中の一部でしかありません。また、どの段階でもコンピュータが入らない情報もあります。口コミ、などはその例です。

情報教育では、これらすべての「人為的な」情報への接し方や、それに適切に対処することを、学びます。「人為的な」と言うからには、受信でも発信でも、情報の向こうには、必ず「誰か」がいるわけで、その「誰か」を視野に入れなければ、情報を考えることはできません。

情報を受け取るときには、

・発信者の意図 ・情報の信憑性(加工の有無) ・情報の新旧 ・自分が探している(受け取りたい)情報は何か ・複数の情報の比較 ・情報の取捨選択

情報の発信では、

・伝えたいことは何か ・誰に伝えるのか ・元の情報への加工 ・確実に間違いなく伝えるための手法や手段 ・言葉の選び方 ・著作権 ・誹謗中傷 ・伝えた結果の予測と期待

といったことがポイントになるでしょう。これらが、情報教育のキーワードです。

コンピュータは、情報を扱う道具として、たいへん手軽であり、また、その手軽さ故の危険性も持っています。コンピュータスキルを学ぶことは、情報を扱う「初めの一步」に過ぎないということを、改めて考えていきたいと思います。